

各国政府等による対外発表

平成27年8月21日 外務省

米 NSC 報道官
ステートメント
(8月14日)



- これまでの日本政府の歴史に関する談話を引き継ぐことへのコミットメントと共に、第二次大戦中に日本がもたらした苦しみに対し、痛切な反省を表明したことを歓迎。
- 安倍総理が、今後も国際的な平和と繁栄に対する貢献を拡大していく日本の意思を確約したことも評価。
- 70年にわたり、日本は、平和、民主主義及び法の支配に対する変わらぬコミットメントを示してきた。この実績は、あらゆる国々の模範となるもの。

中国外交部
ステートメント
(8月14日)



- 日本の木寺昌人駐中国大使に対して、既に中国側の厳正な立場を表明した。日本の軍国主義が起こした侵略戦争は、中国とアジアの被害国の人民に深刻な災難をもたらした。過去のあの時の歴史に正しく認識し向き合うことは、歴史を銘記し、断固として正義を守る要求であり、日本とアジアの隣国が関係を改善する重要な基礎であり、未来を切り開く前提でもある。
- 日本は先の軍国主義の侵略戦争の性質と戦争の責任に対して明晰かつ明確な説明をすべき。
- 被害国の人民に対して真摯にお詫びし、徹底して軍国主義の侵略の歴史を切り離すべき。
- この重大な原則の問題上において如何なる隠蔽もすべきでない。
- 中国側は、日本側に対し、日中国交正常化以来、日本側が歴史問題において中国側に対して行ってきた厳粛な態度表明と約束をしっかり守り、侵略の歴史を直視し、深く反省し、平和的発展の道を堅持し、実際の行動をもってアジアの隣国と国際社会の信頼を得るよう促していく。

朴槿恵
韓国大統領の
光復節演説
(8月15日)



- 1965年の国交正常化以来、河野談話、村山談話など歴代日本内閣が明らかにしてきた歴史認識は韓日関係を支えてきた根幹であった。
- そのような点から昨日行われた安倍総理の戦後70周年談話は物足りない部分が少なくないのが事実。
- 歴史に対する認識は覆い隠そうとしてできるものではなく生きている生き証人の証言によって生きているもの。
- 昨日それにもかかわらず、日本の侵略と植民地支配がアジアの様々な国の国民に多くの損害と苦痛を与えた点と慰安婦被害者に苦痛を与えたことに対して謝罪と反省を根幹にした歴代内閣の立場が今後も揺るがないと国際社会に明確に明らかにした点に注目する。

韓国外交部
スポークスマン
論評
(8月15日)

- 談話は、今の日本政府が植民地支配と侵略の過去をいかなる歴史観で眺めているかを国際社会に如実に表わす契機となった。
- それにもかかわらず、政府は、安倍総理が今般の談話で歴代内閣の歴史認識が今後も揺るぎないと明らかにした点については注目し、果たして日本政府がこのような立場をどのように具体的な行動で実践してい

くのかを見守ろうと思う。

- 日本政府が、日本軍慰安婦被害者問題など韓国・日本間の未解決の過去の懸案を早急に解決するために、より積極的に乗り出すことを促す。
- 今後とも、政府は、歴史問題については、原則に従い明確に対応するものの、北朝鮮の核問題・経済・社会文化など互恵的分野での協力と北東アジアでの平和と繁栄のための領域内協力は、持続的に強化していくという基調を堅持していく。また、政府は、日本政府が隣国として、正しい歴史認識に基づいて新しい未来に進む道に賛同することを期待する。

アボット豪首相
による歓迎
プレスリリース
(8月14日)






- 談話を歓迎。
- 安倍総理の談話は、第二次世界大戦中の豪州及び他国による苦しみを認めている。豪州は、こうした犠牲と苦痛を忘れてはいない。
- 地域の国々が共に前進しなければ、我々の誰もが決して前進することはない。
- 豪州と日本は、両国の国民と指導者が、過去の影によって未来が決定づけられることを拒んできたからこそ、強く盛んな友好関係を発展させてこられた。
- 数十年間にわたって、日本は、国際社会の模範的市民であるとともに、世界の平和と安定への貢献者であり続けてきた。
- 安倍総理のお詫びは、日本政府による過去の談話の上に立脚している。
- 安倍総理の言葉は、全ての人々にとってのより良い未来への日本のコミットメントを他国が受け入れやすくし、他国の日本との友好関係を強化しやすくするはずである。

シンガポール外
務省報道発表
(8月16日)



- 談話に注目する。
- 談話は戦死者に対して、痛惜の念と哀悼の誠を表明。戦時中の行いに対し、日本が繰り返し痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきたことに言及。日本の歴代内閣が明らかにしてきたそのような立場は今後もゆるぎないものであることを表明。安倍総理はまた、日本は歴史に真正面から向き合い、歴史の教訓を深く胸に刻んで平和と繁栄に力を尽くすと述べた。
- 15日、天皇陛下は日本が「過去」を顧み「さきの大戦に対する深い反省と共に」あることの必要性を述べられた。
- シンガポールは第二次世界大戦の恐怖と被害を忘れてはいない。シンガポールの立場は日本は戦争の明確な責任を受け入れるべきであるというもの。同時に、すべての国々が天皇陛下と安倍総理そして歴代の日本の内閣による談話に基づいて、さらなる和解と前進を図ることは同様に重要。このことは我々の地域そして全世界に利益をもたらすであろう。

<p>フィリピン 外務省声明 (8月14日)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「我々は戦争の惨劇を二度と繰り返してはならない」という点において、他の世界の国々と同様に、日本に同意する。 ● 20世紀半ば以降、日本が思いやりを持ち、国際法に従って行動し、地域と世界により積極的かつ肯定的にに關与するようになったことに伴い、特にフィリピンと日本との関係は、多くの分野で信頼と変わることはない支持に特徴付けられるようになった。 ● この70年の歴史は、2つの国の国民が、不断の努力を通じて過去の問題を乗り越え、強い友好関係を築くという点において目覚ましい成果を上げることができるといことを世界に示している。
<p>フィリピン 大統領府声明 (8月16日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国や韓国とは異なり、フィリピンには安倍総理の70周年談話を批判する理由はない。 ● 「積極的平和主義」の推進を支持する、それは、自由、民主主義、人権といった価値に基づくもの。 ● 戦争から学んだ教訓は、国際紛争を解決する手段として、暴力や脅威、または武力の使用を放棄し、長期的な世界的な繁栄へつながる道として平和を追求しようとの決意につながっている。 ● 日本が自由、公正で、開かれた国際経済システムを発展させようとしつつ、途上国支援を継続し、女性の人権を尊重することにコミットしていることは有意義。 ● 中国や韓国は、安倍総理が深い悲しみを示したにもかかわらず、新たな謝罪がないとして批判しているが、フィリピンのものとは明らかに異なる。 ● 戦後、日本は国際法に従って行動し、地域と世界により積極的かつ前向きに關与するようになった。 ● フィリピンと日本は、国際社会と緊密に連携し、戦後の復旧及び復興のみならず、世界の平和、安定及び繁栄に資する国際規範及び機関の確立や促進に、今後も継続して取り組む。
<p>インドネシア政府のコメント (8月14日)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴代政権の談話を踏襲した日本総理大臣による戦後70年談話に敬意を払い、評価。 ● 国際社会の福祉と繁栄のため、地域及びグローバルの平和と安定を引き続き維持することの重要性を強調する。 ● 地域の全ての国に対し、平和、特にアジアにおける平和の維持に対して貢献するよう呼び掛ける。
<p>ハモンド英外相のコメント (8月14日)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安倍総理の談話を歓迎。 ● 謝罪についてのこれまでの日本の談話が再確認されていることを読み取れることをうれしく思う。 ● 70年にわたる平和的發展と法に基づく国際システムへの日本のコミットメントを認識する。 ● 数多くの英国人を含む日本による戦争捕虜の苦しみを安倍総理が認識したことを歓迎する。 ● 談話が、日本と北東アジアにおける隣人との間の和解への肯定的な貢献と受け止められることを希望。

<p>台湾総統府 プレスリリース (8月14日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 馬英九総統は、日本政府が今後歴史事実を正視し続け、深く反省し、教訓を銘記し、未来志向の考え方と責任ある態度で周辺国家と友好協力関係を発展させ、地域の平和と繁栄を増進することに共に努力することを希望。 ● 歴史の過ちは許せるかもしれないが、歴史の真相を忘れることはできない。 ● 中華民国と日本は戦後に建立した堅実な友好関係により、既にアジア各国が戦争の影から抜け出し、和解と協力の最も良い模範となっている。
<p>台湾民進党 プレスリリース (8月14日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 民進党は高度に重視し尊重し、また安倍首相の平和維持に対する約束を肯定する。 ● 安倍首相が歴史に向き合おうとする態度は、地域の平和と安定の助けとなる。

<p>北朝鮮外務省 スポークスマン 談話 (8月15日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「戦後70年談話」には日本の侵略の歴史に対する誠実な認定と謝罪が込められていない。 ● 日本がわが人民に与えた天人が共に怒る犯罪行為と取り返しのつかない被害をいまだに清算せずにいることについて一言の謝罪や反省もなく、未来と国際社会における責任、貢献を云々することは朝鮮人民に対する耐え難い愚弄であり、国際社会に対する欺瞞である。
<p>北朝鮮国防 委員会政策局 スポークスマン 談話 (8月19日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 安倍(総理)は厚顔無恥にも「日本の人口の80%が戦後世代であり、彼らに謝罪を続ける宿命を負わせてはならない」とし、過去の歴史に対する謝罪はこれ以上しないということを公然と主張した。人類に被害を与えた戦犯の罪には時効などあり得ない。 ● 最初から最後まで終始一貫して犯した罪悪を隠蔽、縮小、回避した安倍(総理)の「談話」は、わが方の自主権と尊厳、国際的正義と人類の良心に対する正面からの挑戦である。

<p>国連事務総長 スポークスパー ソン定例記者会 見 (8月14日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務総長は、談話に注目し、吟味している。 ● 事務総長は、歴史の内省及び理解に基づき、関係各国が真の和解を成し遂げ、地域の平和と繁栄を共に構築することを希望。
---	--